

2005年  
7月9日▶8月28日

昔、柏原に天皇の離宮があった……

# 離宮

## —竹原井頓宮と 智識寺南行宮—

### 文化財講演会

7月30日（土）午後1時～4時  
塚口義信氏（堺女子短期大学学長）  
「竹原井頓宮と智識寺南行宮の謎を解く」  
安村俊史（柏原市立歴史資料館）  
「青谷遺跡と安堂遺跡」

8月 6日（土）午後1時～4時  
平田政彦氏（斑鳩町教育委員会）  
「上宮遺跡は称徳親王の御所か」  
古閑正浩氏（大山崎町教育委員会）  
「山背遷都における離宮の再編と瓦」  
定員60名（12時30分より受付）  
無料・申し込み不要

青谷遺跡（推定竹原井頓宮跡）

## 柏原市立歴史資料館

休館日 月・火曜日と祝日

開館時間 9：30～16：00

入館料 無料

交通 JR大和路線高井田駅から徒歩5分

近鉄大阪線河内国分駅から徒歩15分

大阪府柏原市高井田1598-1 TEL0729-76-3430



安堂遺跡出土木簡

# 離宮

## —竹原井頓宮と智識寺南行宮—

離宮とは、皇居以外の宮殿で、皇族の別荘のことです。古代から現代まで、さまざまな離宮が営まれてきましたが、ここでは奈良時代の離宮について考えてみたいと思います。奈良時代の天皇も、平城宮を離れて出かけることが、しばしばありました。これを行幸ぎょうこうといいます。古代の行幸は、大臣など主だった人たちもこれに同行し、千人近くの人々が移動する大きなできごとでした。行幸の目的は、政治的な目的以外に、保養、寺社参詣、狩猟などさまざまです。

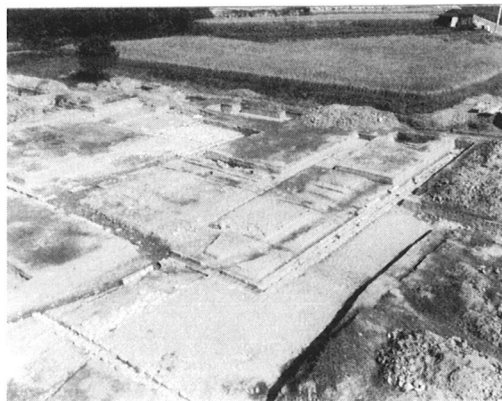
行幸の際に、皇族は行宮、頓宮、離宮などに宿泊します。行宮は「かりみや」とも呼ばれ、一時的な宿泊施設です。これに対して離宮は恒常的な施設であり、奈良時代に離宮と表現されるのは、甕原離宮、和泉離宮（智努離宮、和泉宮）、芳野離宮（芳野宮）、竹原井離宮（河内離宮）の4つのみです。これらの離宮や小治田宮、由義宮、飽浪宮などは、おそらく瓦葺建物の正殿を中心に、多数の建物が規則的に建ち並んでいたのでしょう。

柏原市内には、竹原井頓宮（離宮・行宮とも）と智識寺南行宮（智識寺行宮とも）という2つの施設が存在したと考えられます。今回の展示では、この2つの施設を中心に、奈良時代の離宮について考えています。奈良時代の華やかな行幸、そして離宮に思いを馳せてみましょう。

### たかはらいとんぐう 竹原井頓宮

『続日本紀』では、竹原井離宮、竹原井行宮とも記され、『万葉集』にみられる河内離宮も同じと考えられます。養老元年（717）2月に、元正天皇が難波宮に行幸する際に宿泊したのが最初のようにです。これ以降、天皇らが竜田道たつたみちを通して平城と難波を往来する際に、しばしば利用されたようです。

1984年度の発掘調査で、竹原井頓宮と推定される遺構が発見されました。この調査地は、奈良時代の瓦が出土することから、それまでは古代寺院跡と考えられていました。しかし、調査の結果は塼や切石を使った雨落溝を伴う基壇、石敷きの通路など、寺院とは考えられない、まさしく竹原井離宮にふさわしい遺構で、青谷遺跡と遺跡名を変更しました。平城と難波のほぼ中間点にあり、大和川河岸で風光明媚な地にあたります。

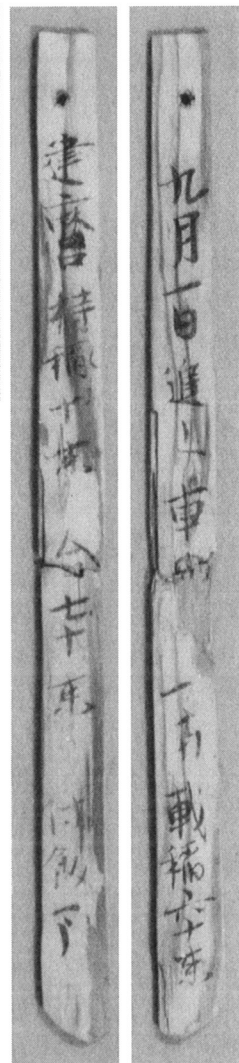


青谷遺跡

### ちしきじみなみのあんぐう 智識寺南行宮

天平勝宝8年（756）に孝謙天皇が難波宮へ行幸した際、その往来に智識寺南行宮、智識寺行宮に宿泊しています。智識寺とは、聖武天皇が東大寺の大仏を造営するきっかけとなった仏像が安置されていた寺院です。天平勝宝8年の行幸も、東大寺の大仏が完成したお礼に、智識寺と周辺の寺院へ参詣したものでしょう。おそらく智識寺のすぐ南、柏原市太平寺から安堂の地に智識寺南行宮が存在したものと推定されます。

これまで、行宮に直接関わる遺跡は確認されていませんが、行宮の推定地の西から、奈良時代の木簡6点と人形・箸・削り屑などの木製品が出土しました。木簡は行宮造営時に運びこまれた塩や米に付いていたものと考えられ、そのほかの木製品は行宮造営や完成の儀式に伴うものでしょう。これらの遺物が、行宮の存在を物語っています。



安堂遺跡出土木簡